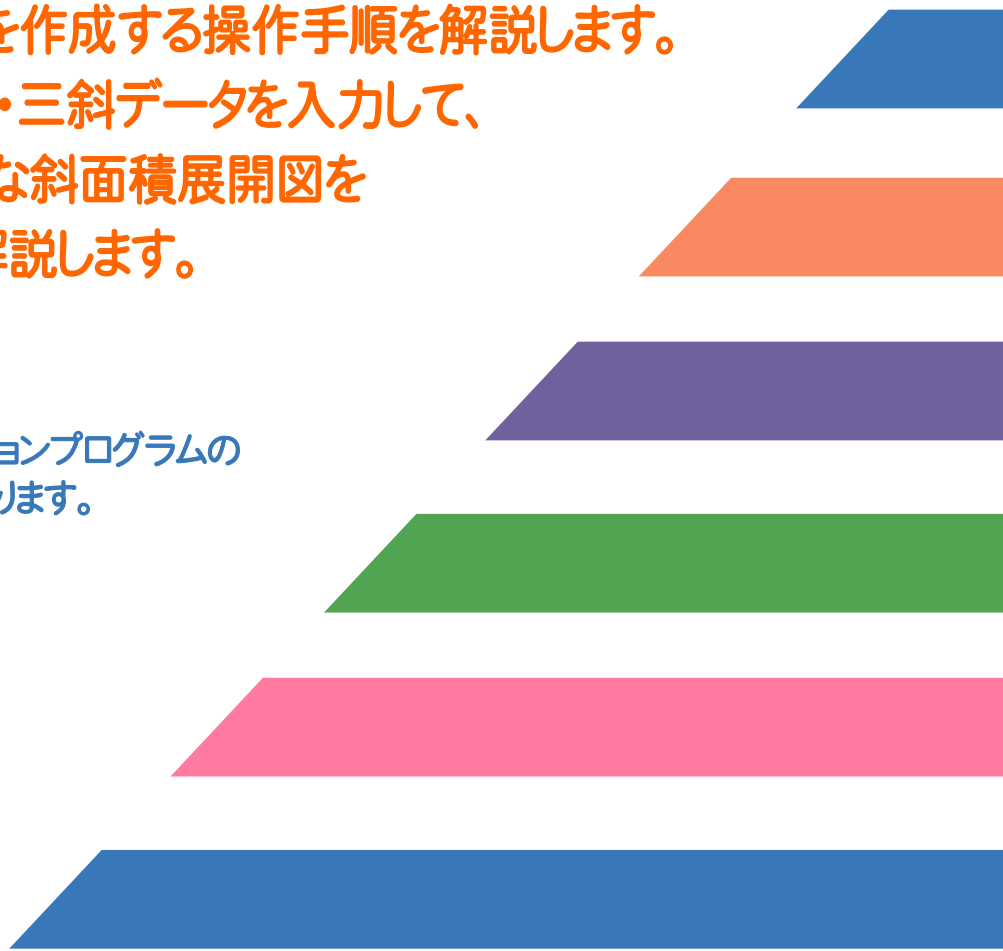


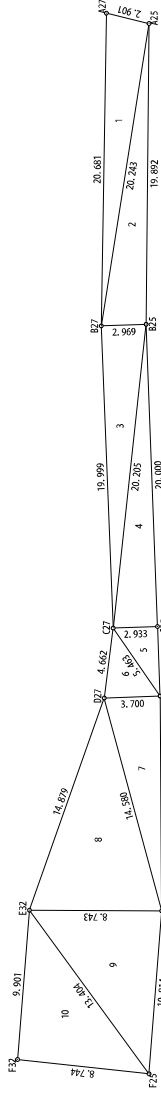
斜面積展開図の作成

斜面積展開図を作成する操作手順を解説します。
本書では、座標・三斜データを入力して、
次ページのような斜面積展開図を
作成する例で解説します。

※解説内容がオプションプログラムの
説明である場合があります。
ご了承ください。



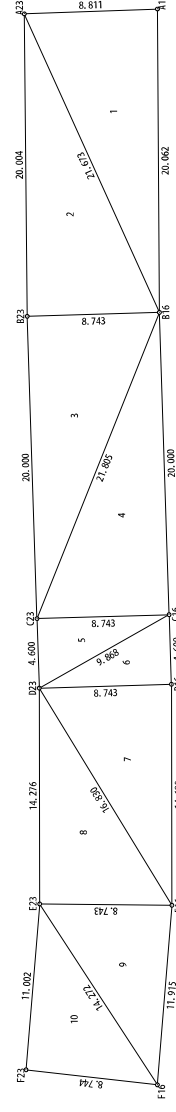
1)プロットA				
番 号	辺長A	辺長B	辺長C	面積
1	2,901	20,243	20,081	21,913
2	20,243	19,892	2,969	21,552
3	2,969	20,205	19,999	21,987
4	20,205	20,000	2,933	21,569
5	2,933	4,600	5,463	6,746
6	5,463	3,700	4,662	6,913
7	3,700	14,205	14,580	16,243
8	14,580	8,743	14,679	19,101
9	8,743	10,814	13,464	16,481
10	13,464	8,744	9,901	16,025
ヘロン合計面積				311,180



2)プロットB				
番 号	辺長A	辺長B	辺長C	面積
1	20,004	19,930	2,105	21,000
2	19,930	1,508	19,892	20,665
3	1,508	20,056	20,000	20,782
4	20,056	20,000	1,508	20,782
5	1,508	4,840	4,600	5,474
6	4,840	4,600	1,508	5,474
7	1,508	14,276	14,306	15,045
8	14,306	1,508	14,205	15,010
9	1,508	11,002	10,989	11,750
10	10,989	1,507	10,814	11,655
ヘロン合計面積				110,944



3)プロットC				
番 号	辺長A	辺長B	辺長C	面積
1	20,042	21,673	8,811	25,273
2	21,673	8,743	20,004	25,210
3	8,743	21,895	20,000	25,274
4	21,895	20,000	8,743	25,274
5	8,743	9,868	4,600	11,606
6	9,868	4,600	8,743	11,606
7	8,743	14,620	16,830	20,097
8	16,830	8,743	14,276	19,975
9	8,743	11,915	14,272	17,465
10	14,272	8,744	11,002	17,009
ヘロン合計面積				617,177



総合計面積 1039,301

工事名	斜面積展開図サンプル工事		
図面名	斜面積展開図		
作成年月日	平成25年3月25日		
縮尺	図面番号	1	/ 1
会社名	□□□□		
事業者名	△△△△		

1. 入力例の説明	1
2. 作業現場情報の入力	2
2-1 [現場管理]を起動する	2
2-2 工区を作成する	3
2-3 現場を作成する	4
3. 座標の入力	5
3-1 座標・地番を読み込む	5
4. 斜面積データの入力	6
4-1 [斜面積展開図]を起動する	6
4-2 計算の丸めを設定する	6
4-3 座標を入力する	7
4-4 斜面積データを入力する	8
4-5 三辺データの計算書を作成する	14
4-6 [斜面積展開図]を終了する	16
5. 斜面積展開図の作成	17
5-1 [CAD]を起動する	17
5-2 CAD製図基準(案)のレイヤを設定する	18
5-3 展開図スタイルを設定する	20
5-4 展開図を配置する	21
5-5 図枠を配置する	25
5-6 表題欄を配置する	26
5-7 CAD製図基準チェックをする	27
5-8 SXFデータに保存する	29
6. 現場データの保存	30
6-1 現場データを保存する	30

1 入力例の説明

本章では、下記に示す流れに従い、[斜面積展開図]でデータを入力し、[CAD]で斜面積展開図を作成します。

作業現場情報の入力 (P.2)

- ・ 現場情報を入力する。

座標の入力 (P.5)

- ・ 座標地番SIMAファイルを読み込む。

斜面積データの入力 (P.6)

- ・ 丸めの設定を行う。
- ・ 座標を入力する。
- ・ 三斜データを自動入力し、三辺データを作成する。
- ・ 三辺データの計算書を作成する。

斜面積展開図の作成 (P.17)

- ・ 作図のスタイルを設定する。
- ・ 三辺データを読み込んで、配置を設定する。
- ・ 斜面積展開図を作成し、求積表を配置する。
- ・ 図枠、表題欄を配置する。
- ・ CAD製図基準(案)に沿っているかをチェックして修正する。

現場データの保存 (P.30)

- ・ 現場データを保存する。

プロッター・プリンターへの出力

- ・ 作図した斜面積展開図をプロッター・プリンターへ出力する。

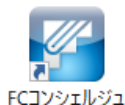
2 作業現場情報の入力

[BLUETREND XA Ver.8 現場管理]では、BLUETREND XAで作成したデータを管理します。作業現場情報を詳細に入力することで、複数の現場(または図面)が管理しやすくなります。

また、複数の現場をまとめた「工区」という単位で管理することもできます。工区は、作業現場の地区や時期などの条件によって分類することをお勧めします。

2-1 [現場管理]を起動する

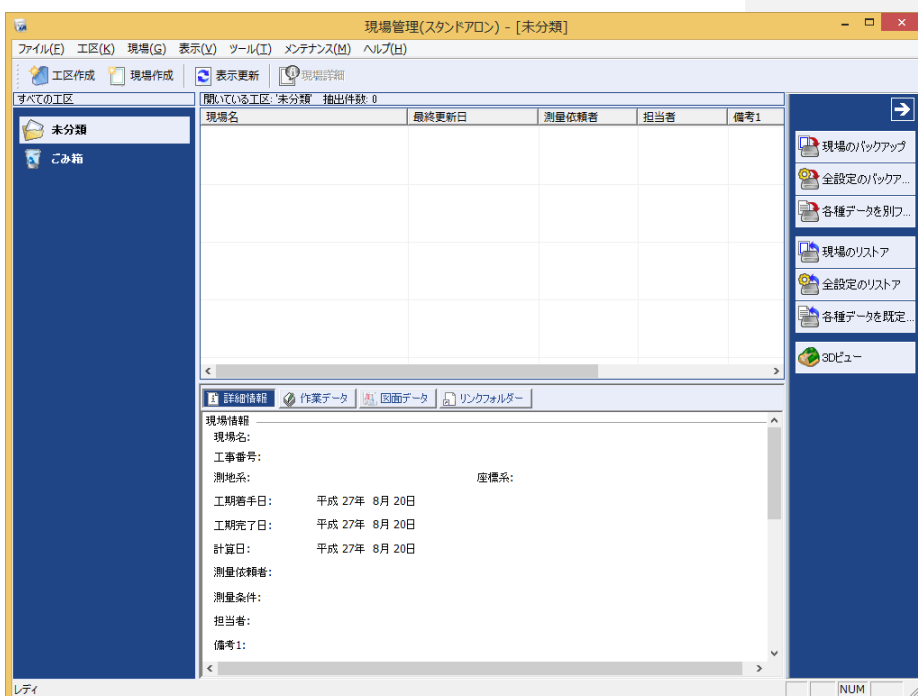
[BLUETREND XA Ver.8 現場管理]を起動します。



1 デスクトップ画面で[BLUETREND XA Ver.8 現場管理]をダブルクリックします。



Windows7をお使いの方は、画面左下の[スタートボタン]-[すべてのプログラム]-[FukuiComputerApplication]-[BLUETREND XA Ver.8 現場管理]をクリックして起動することができます。



2-2 工区を作成する

関連のある複数の現場データをまとめる単位として[工区]があり、親工区とサブ工区に分けて現場データを階層管理することもできます。

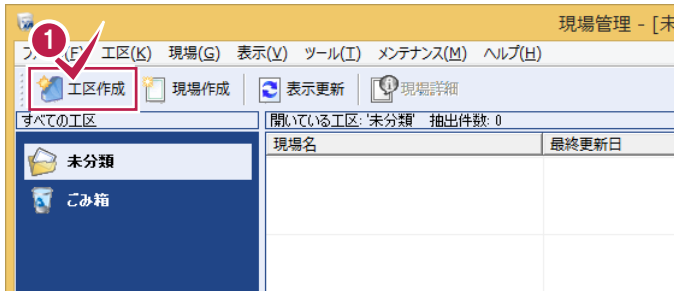
工区には名称をつけることができ、作成できる工区数にも制限はありません。(ハードディスク容量に依存)

工区で現場を分けることや現場情報を詳細に入力することにより、現場データを管理しやすくなります。

(工区の使用例：担当者別、発注者別、地区別、年度別、月別)

注意

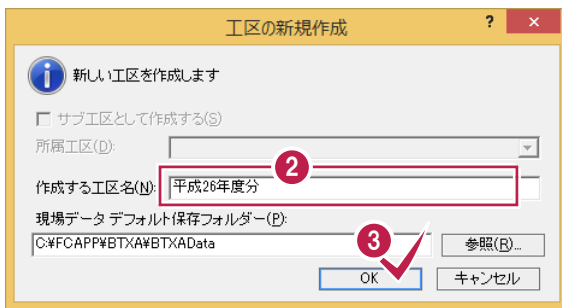
現場の詳細は現場データを少なくとも1度は保存しなければ設定できません。



1 [工区作成]をクリックします。

2 [工区名]を入力します。

3 [OK]をクリックします。

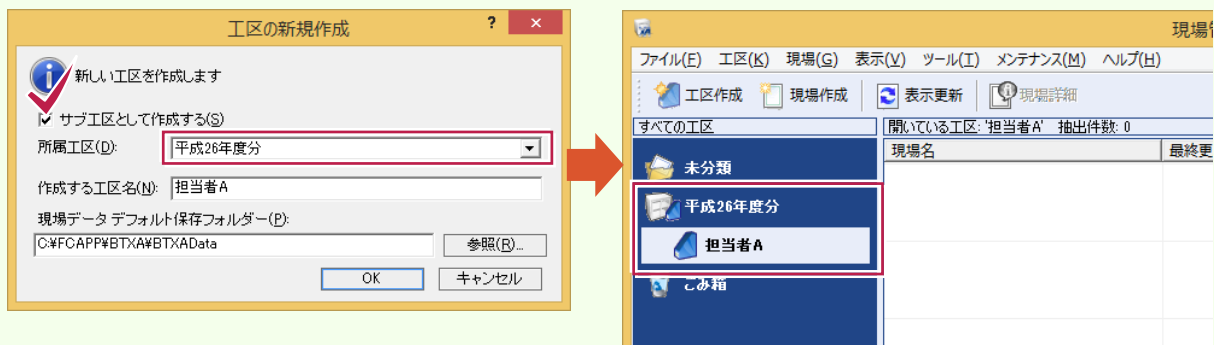


メモ

工区の階層化について

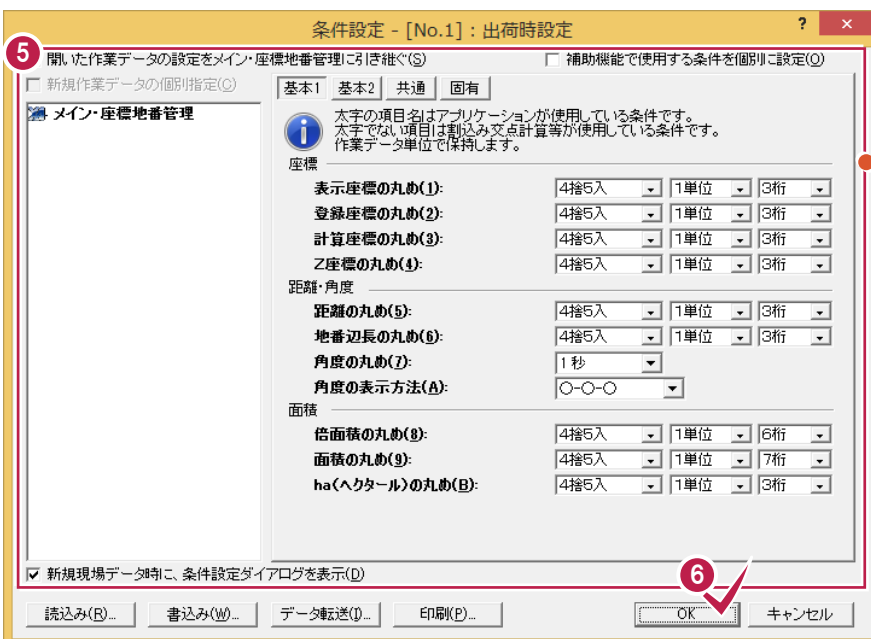
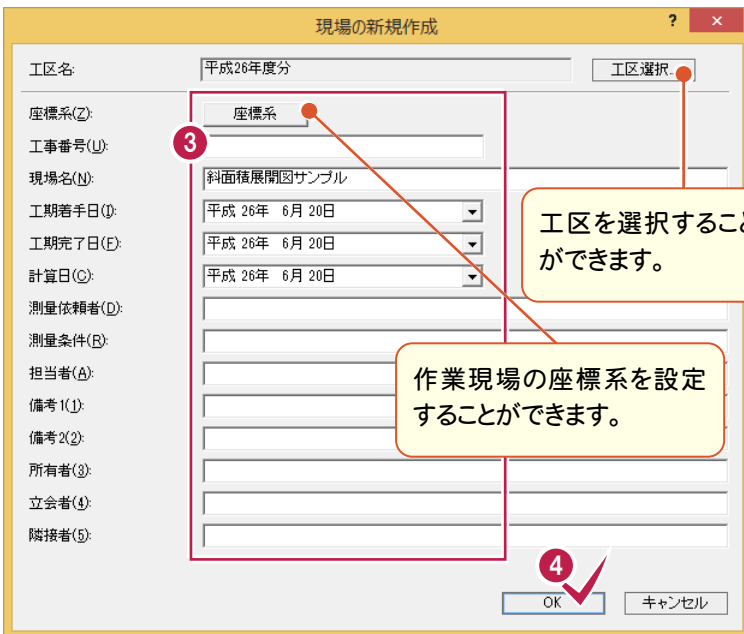
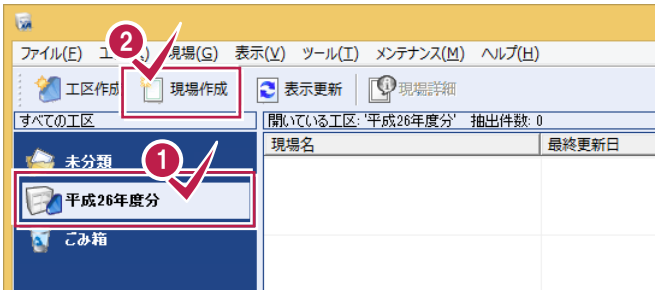
[サブ工区として作成する]にチェックを入れて、所属工区で親工区を選択することにより、親工区とサブ工区の2階層で仕分けすることができます。工区数が多くなった場合でも管理がしやすくなります。

(下図の例では、親工区を「平成 26 年度分」、サブ工区を「担当者 A」と設定しています。)



2-3 現場を作成する

現場を作成します。



- 1 入力した工区をクリックします。
ここでは工区を新規作成したため、現時点では現場が存在しません。
- 2 [現場作成]のアイコンをクリックします。
- 3 [現場名]など、必要な項目を入力します。
- 4 [OK]をクリックします。
BLUETREND XAの作業ウィンドウがアクティブになり、[条件設定]ダイアログが表示されます。
- 5 6 各タブをクリックして、各項目の設定を確認し、[OK]をクリックします。



起動モードについて

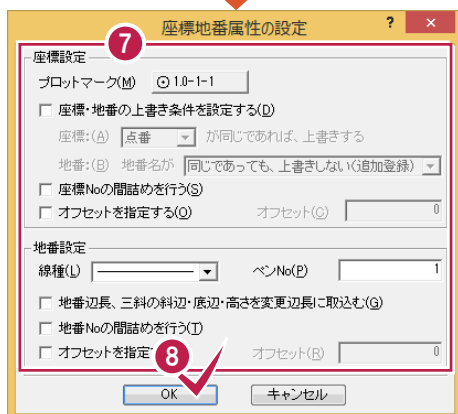
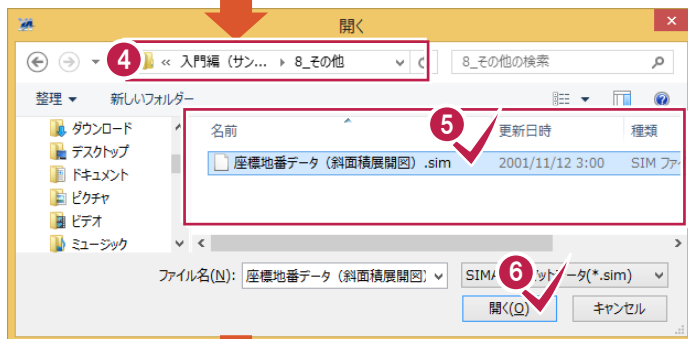
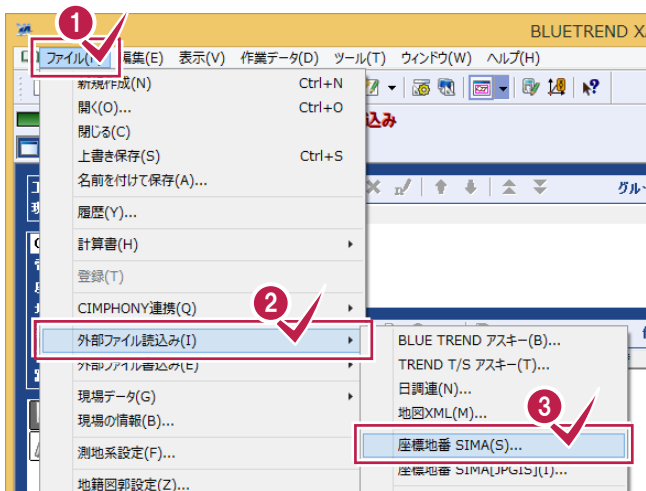
サーバーインストールした場合、ここで現場占有か現場共有かを選択することが可能です。詳細はマニュアル「共同作業の運用方法」を参照してください。

3 座標の入力

[斜面積展開図]では、[座標管理]で登録されている座標を使用します。

ここでは、あらかじめ用意した座標・地番SIMAファイル「座標地番データ(斜面積展開図).sim」を読み込んで、座標を登録します。

3-1 座標・地番を読み込む



点番	点名	X座標	Y座標	Z座標	マーク
1	BP	385.858	7.676	0.000	◎1.0-1-1
2	IP.1	344.245	68.196	0.000	◎1.0-1-1
3	IP.2	295.433	103.789	0.000	◎1.0-1-1
4	IP.3	304.288	157.529	0.000	◎1.0-1-1
5	IP.4	320.798	214.546	0.000	◎1.0-1-1
6	IP.5	366.453	244.984	0.000	◎1.0-1-1
7	EP	396.045	329.531	0.000	◎1.0-1-1
8					

1 2 3

[ファイル]－[外部ファイル読み込み]－[座標地番SIMA]と順にクリックします。

4 5 6

ファイルの場所を指定して「座標地番データ(斜面積展開図).sim」をクリックし「開く」をクリックします。

7 8

座標や地番に関する設定を確認し、「OK」をクリックします。

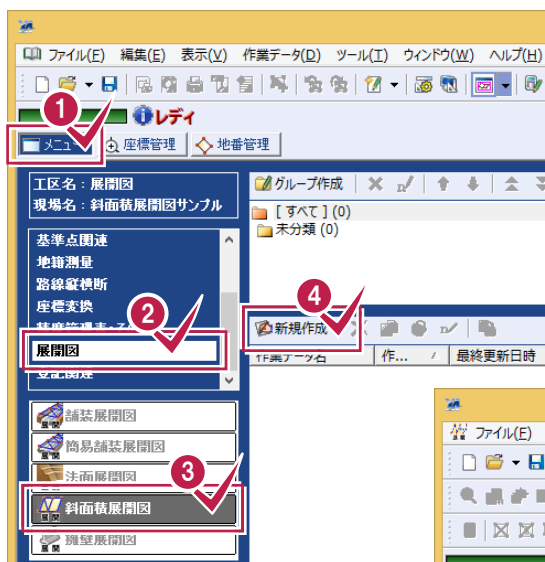
9

「OK」をクリックします。
[座標管理]に、データが読み込まれます。

4 斜面積データの入力

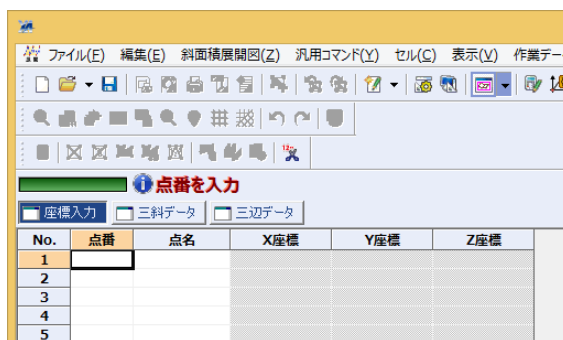
[斜面積展開図]で座標と三斜データを入力して、三辺データを作成します。

4-1 [斜面積展開図]を起動する



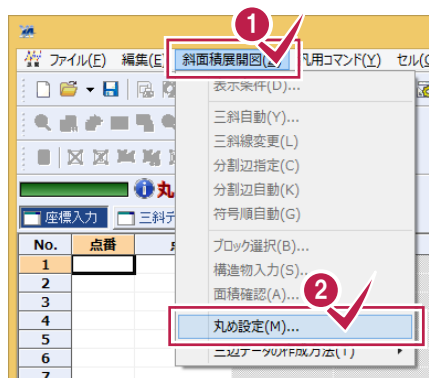
1 2 3 4

メインメニューから[メニュー]タブをクリックし、[展開図]–[斜面積展開図]–[新規作成]をクリックします。
[斜面積展開図]ウィンドウが表示されます。



4-2 計算の丸めを設定する

距離や面積計算などの丸め方法、丸め単位、丸め有効桁数などを設定します。ここでは出荷版設定を使用します。

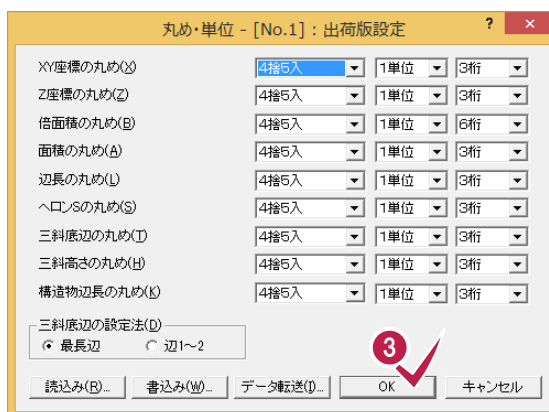


1 2

[斜面積展開図]–[丸め設定]を順にクリックします。

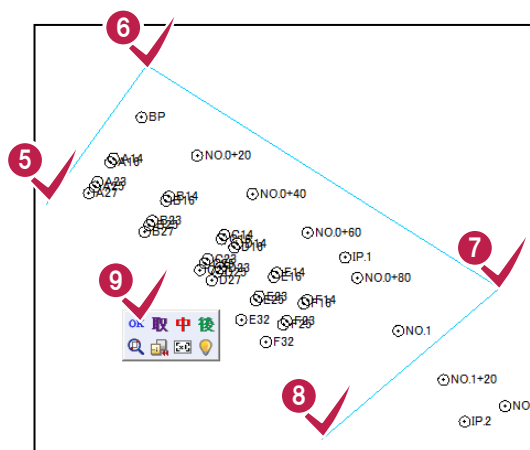
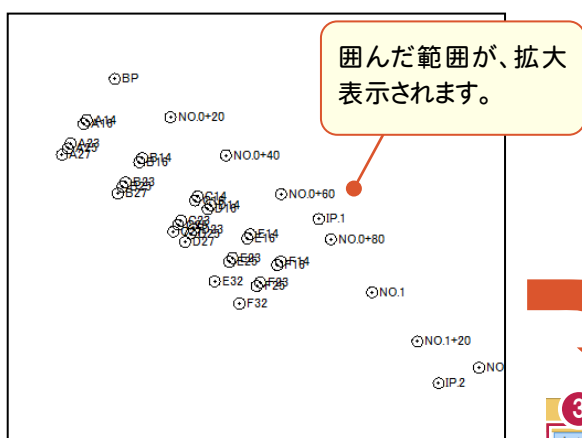
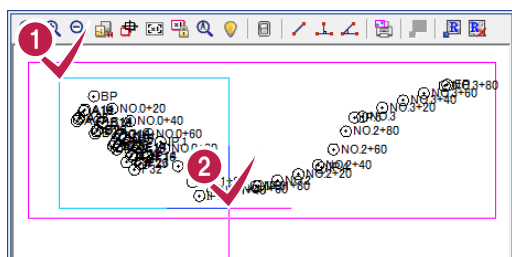
3

各項目の設定を確認して[OK]をクリックします。




4-3 座標を入力する

斜面積展開図で使用する座標を入力します。ここではプロット画面を利用して、[セル]－[範囲選択]コマンドで範囲を指定して座標を入力します。



1 2

まず入力しやすくするために、プロット画面の範囲を拡大します。

 をクリックして、拡大する範囲の対角の2点をクリックします。

3 4

[セル]－[範囲選択]を順にクリックします。

5 6 7 8 9

プロット画面上で、座標を入力する範囲を順にクリックして指定し、最後に右クリックして表示されるポップアップメニューの[OK]をクリックします。

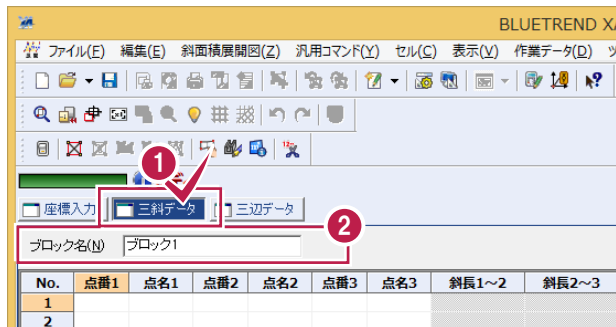


No.	点番	点名	X座標	Y座標	Z座標
23	235	D14	348.414	36.056	110.739
24	236	D16	347.178	35.206	110.589
25	237	D23	341.184	31.084	105.739
26	238	D25	339.948	30.234	105.589
27	239	D27	337.411	28.490	103.537
28	240	E14	339.692	47.879	110.752
29	241	E16	338.498	46.971	110.602
30	242	E23	332.706	42.570	105.752
31	243	E25	331.511	41.662	105.602
32	244	E32	325.719	37.261	100.752
33	245	F14	331.670	56.939	110.576
34	246	F16	330.599	55.889	110.426
35	247	F23	325.403	50.797	105.576
36	248	F25	324.332	49.747	105.426
37	249	F32	319.136	44.654	100.576
38					
39					

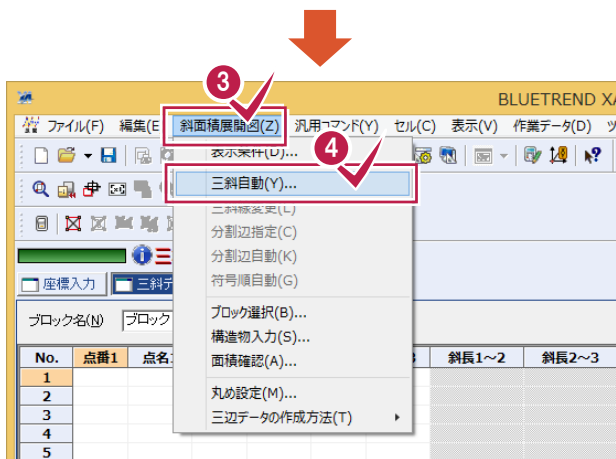
4-4 斜面積データを入力する

ブロック1の三斜データを入力する

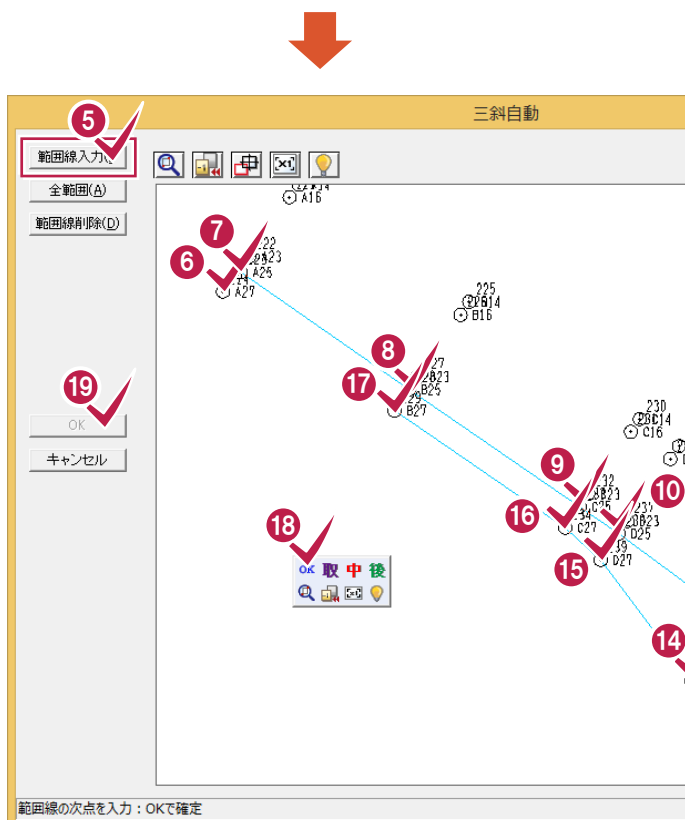
三斜データは、1つの作業データ内に複数の三斜データをブロックとして登録することができます。プロット画面上で範囲を指定して、ブロック1の三斜データを入力する手順を解説します。



1 2
[三斜データ]をクリックし、[ブロック名]に入力する三斜データの名称を入力します。ここでは「ブロック1」と入力します。



3 4
[斜面積展開図]－[三斜自動]をクリックします。

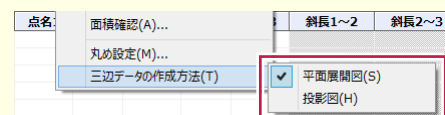


5 6 7 8 9 10 11
12 13 14 15 16 17
[範囲線入力]をクリックし、プロット画面上の座標を順番にクリックして、三斜データの範囲を指定します。ここでは、次の順でクリックします。
A27→A25→B25→C25→D25→E25→F25→F32→E32→D27→C27→B27。

18 範囲の指定が終わったら、右クリックして表示されるポップアップメニューの[OK]をクリックします。

19 [OK]をクリックします。

三辺データの作成方法は[平面展開図]と[投影図]から選択できます。操作例は[平面展開図]で解説しています。



No.	点番1	点名1	点番2	点名2	点番3	点名3	斜長1~2	斜長2~3	斜 [△]
1	224	A27	223	A25	229	B27	2.901	20.243	
2	229	B27	223	A25	228	B25	20.243	19.892	
3	229	B27	228	B25	234	C27	2.969	20.205	
4	234	C27	228	B25	233	C25	20.205	20.000	
5	234	C27	233	C25	238	D25	2.933	4.600	
6	234	C27	238	D25	239	D27	5.463	3.700	
7	239	D27	238	D25	243	E25	3.700	14.205	
8	239	D27	243	E25	244	E32	14.580	8.743	
9	244	E32	243	E25	248	F25	8.743	10.814	
10	244	E32	248	F25	249	F32	13.404	8.744	
11									
12									
13									
14									
15									
16									

20 入力されたデータを確認します。



メモ プロット画面が見にくい場合は

[斜面積展開図]-[表示条件]コマンドで、プロットで表示される各データ(座標、三斜データなど)の表示のオン/オフ、色の設定を行うことができます。

1 2

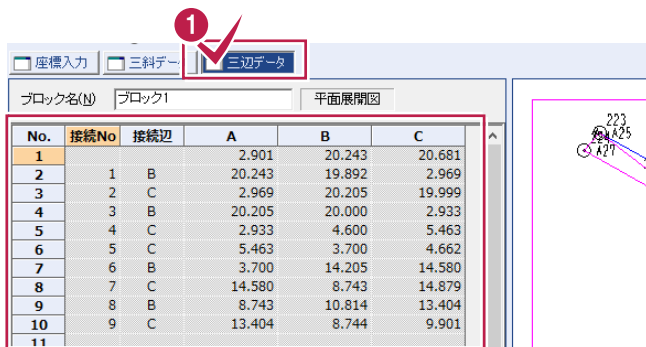
[斜面積展開図]-[表示条件]をクリックします。

3 4

[表示条件]ダイアログで、点番や点名、三斜データなどの表示のオン/オフ、色などを設定し、[OK]をクリックします。

ブロック1の三辺データを作成する

ブロック1の三斜データから、三辺データを自動作成します。



No.	接線No	接線辺	A	B	C
1			2.901	20.243	20.681
2	1	B	20.243	19.892	2.969
3	2	C	2.969	20.205	19.999
4	3	B	20.205	20.000	2.933
5	4	C	2.933	4.600	5.463
6	5	C	5.463	3.700	4.662
7	6	B	3.700	14.205	14.580
8	7	C	14.580	8.743	14.879
9	8	B	8.743	10.814	13.404
10	9	C	13.404	8.744	9.901
11					

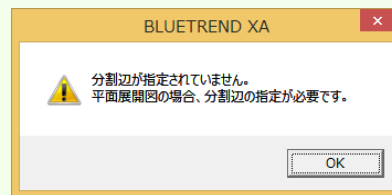
1 [三辺データ]をクリックします。ブロック1の三辺データが作成されます。

メモ 分割辺の指定について

周囲をすべて三角形で囲まれている測点がある場合に[三辺データ]をクリックすると、右図のようなメッセージが表示されます。

このようなときは、[三斜データ]で分割辺を指定してから、三辺データを作成してください。

ここでは、分割辺を[三斜データ]の[斜面積展開図]—[分割辺指定]コマンドで指定する方法を解説しますが、[斜面積展開図]—[分割辺自動]コマンドで分割辺を自動設定することもできます。



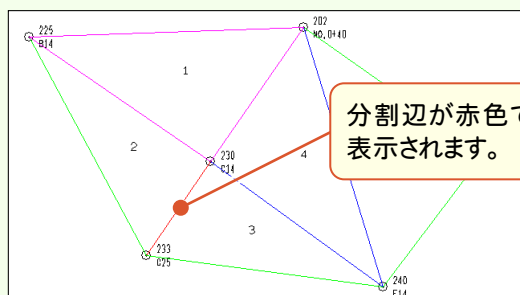
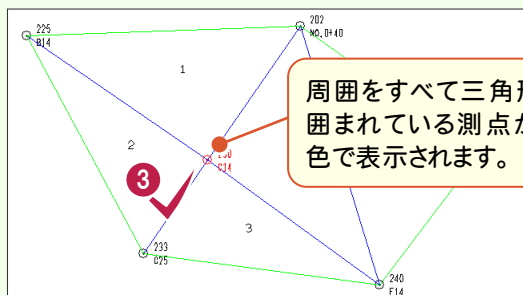
ただし、三辺データの作成方法を投影図にしている場合は[分割辺指定]および[分割辺自動]コマンドは無効です。



1 2 [斜面積展開図]—[分割辺指定]を順にクリックします。

3 周囲をすべて三角形で囲まれている測点が赤色で表示されますので、分割する辺をクリックして指定します。

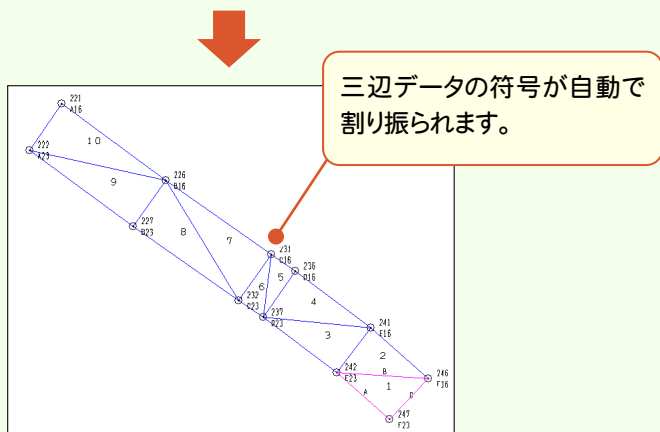
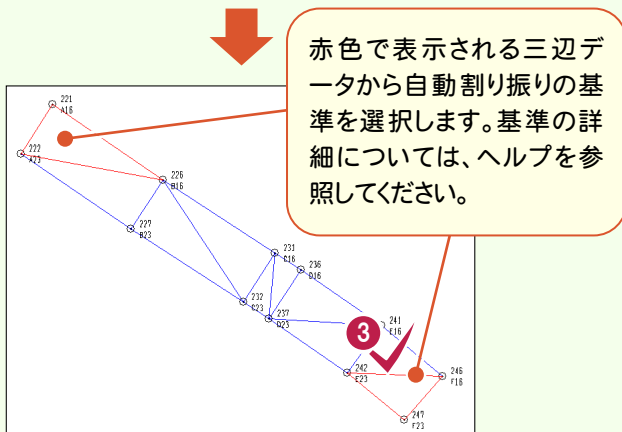
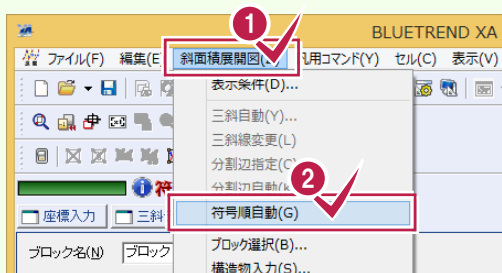
分割辺が赤色で表示されます。



メモ

三辺データの符号を変更するには

三辺データの符号は、[三辺データ]の[斜面積展開図]-[符号順自動]コマンドで変更することができます。



1 2

[斜面積展開図]-[符号順自動]をクリックします。

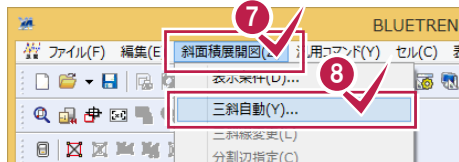
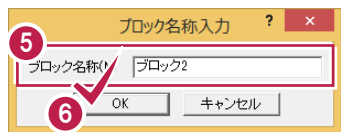
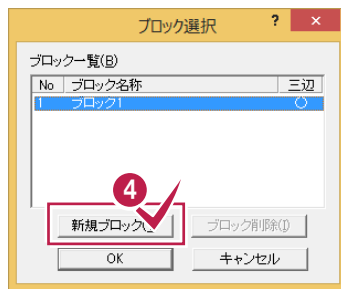
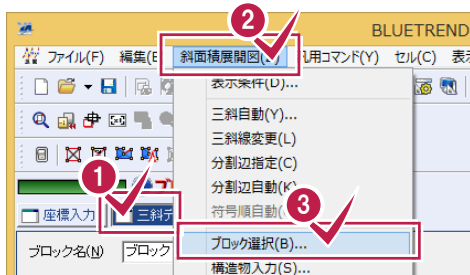
3

自動割り振りの基準を指定します。赤色で表示されている三辺データから選択してクリックします。

三辺データの符号が自動で割り振られます。

ブロック2の三斜データを入力する

ブロック2を追加後、プロット画面上で範囲を指定して、ブロック2の三斜データを入力します。



1 2 3

[三斜データ]を選択して、[斜面積展開図] – [ブロック選択]をクリックします。

4

[新規ブロック]をクリックします。

5 6

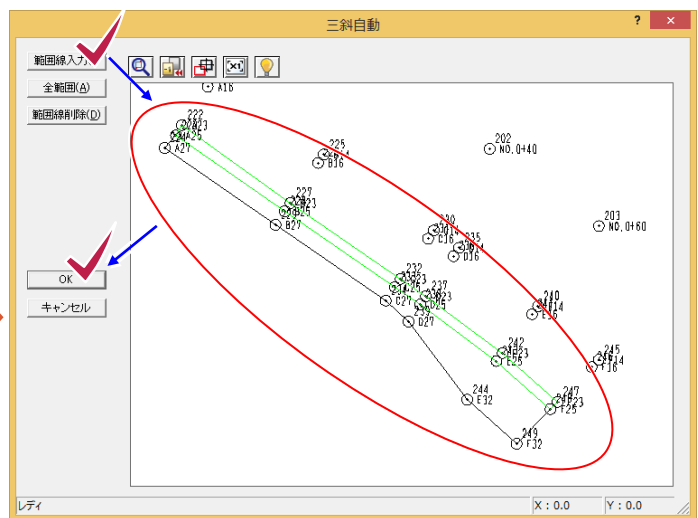
「ブロック2」と入力して[OK]をクリックします。

7 8

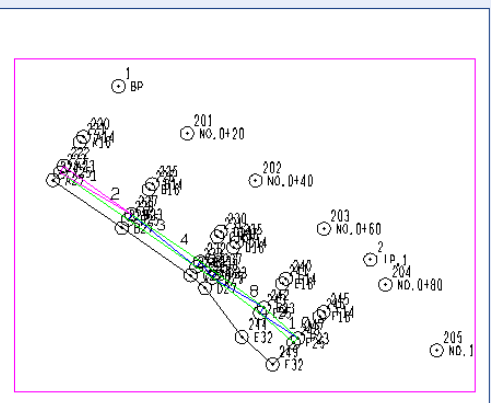
前述「ブロック1を入力する」と同様に、[斜面積展開図] – [三斜自動]コマンドでブロック2の三斜データの範囲を指定して入力します。

ここでは、次の順で入力します。

A25→A23→B23→C23→D23→E23→
F23→F25→E25→D25→C25→B25



No.	点番1	点名1	点番2	点名2	点番3	点名3	斜長1~2	斜長2~3	斜、ハ
1	223	A25	222	A23	227	B23	2.105	20.004	
2	223	A25	227	B23	228	B25	19.930	1.508	
3	228	B25	227	B23	233	C25	1.508	20.056	
4	233	C25	227	B23	232	C23	20.056	20.000	
5	233	C25	232	C23	238	D25	1.508	4.840	
6	238	D25	232	C23	237	D23	4.840	4.600	
7	238	D25	237	D23	242	E23	1.508	14.276	
8	238	D25	242	E23	243	E25	14.306	1.508	
9	243	E25	242	E23	247	F23	1.508	11.002	
10	243	E25	247	F23	248	F25	10.989	1.507	
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									



ブロック2の三辺データを作成する

ブロック2の三斜データから、三辺データを自動作成します。

No.	接続No	接続辺	A	B	C
1			20.004	19.930	2.105
2	1	B	19.930	1.508	19.892
3	2	B	1.508	20.056	20.000
4	3	B	20.056	20.000	1.508
5	4	C	1.508	4.840	4.600
6	5	B	4.840	4.600	1.508
7	6	C	1.508	14.276	14.306
8	7	C	14.306	1.508	14.205
9	8	B	1.508	11.002	10.989
10	9	C	10.989	1.507	10.814
11					
12					
13					
14					
15					

- 1 [三辺データ]をクリックします。ブロック2の三辺データが作成されます。

ブロック3の三斜データを入力して三辺データを作成する

ブロック2と同様に[斜面積展開図]-[ブロック選択]コマンドでブロック3を追加後、[斜面積展開図]-[三斜自動]コマンドでブロック3の三斜データを入力します。

No.	点番1	点名1	点番2	点名2	点番3	点名3	斜長1~2	斜長2~3	斜長3~1
1	222	A23	221	A16	226	B16	8.811	20.062	21.673
2	222	A23	226	B16	227	B23	21.673	8.743	20.004
3	227	B23	226	B16	232	C23	8.743	21.805	20.000
4	232	C23	226	B16	231	C16	21.805	20.000	8.743
5	232	C23	231	C16	237	D23	8.743	9.868	4.600
6	237	D23	231	C16	236	D16	9.868	4.600	8.743
7	237	D23	236	D16	241	E16	8.743	14.620	16.830
8	237	D23	241	E16	242	E23	16.830	8.743	14.276
9	242	E23	241	E16	246	F16	8.743	11.915	14.272
10	242	E23	246	F16	247	F23	14.272	8.744	11.002
11									
12									
13									
14									
15									

- 1 ブロック3の三斜データの範囲は、次の順で入力します。
A23→A16→
B16→C16→
D16→E16→
F16→F23→
E23→D23→
C23→B23。

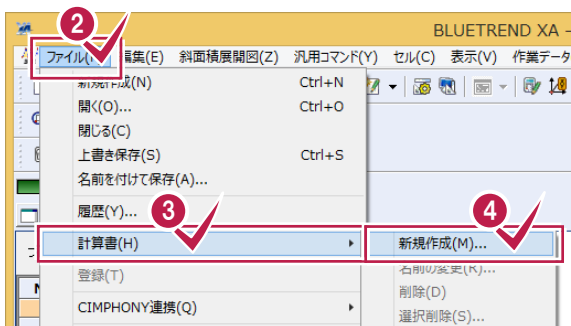
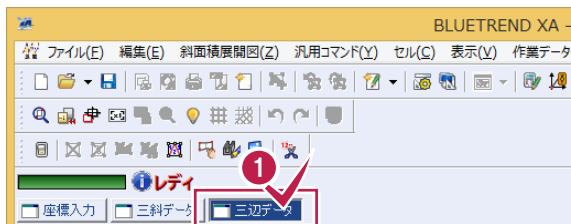
No.	接続No	接続辺	A	B	C
1			20.062	21.673	8.811
2	1	B	21.673	8.743	20.004
3	2	B	8.743	21.805	20.000
4	3	B	21.805	20.000	8.743
5	4	C	8.743	9.868	4.600
6	5	B	9.868	4.600	8.743
7	6	C	8.743	14.620	16.830
8	7	C	16.830	8.743	14.276
9	8	B	8.743	11.915	14.272
10	9	C	14.272	8.744	11.002
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					

- 2 三斜データ入力後 [三辺データ]をクリックして、ブロック3の三辺データを作成します。

4-5

三辺データの計算書を作成する

三辺データの計算書を作成します。



1 [三辺データ]をクリックします。

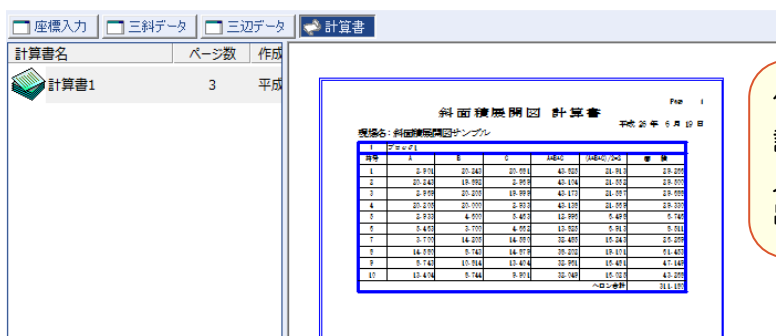
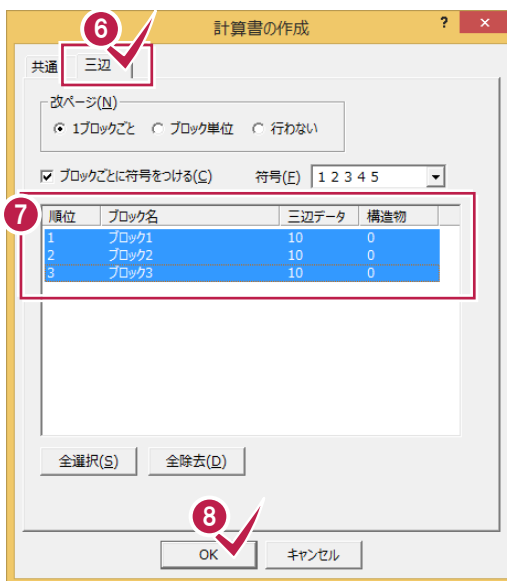
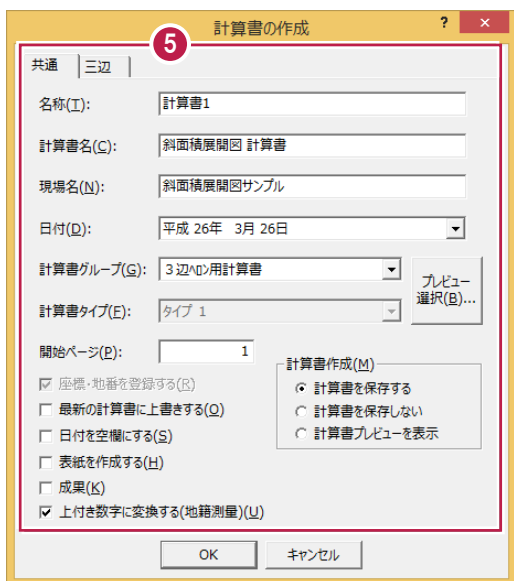
2 3 4

[ファイル]－[計算書]－[新規作成]をクリックします。

5 [共通]で次のように設定します。
[計算書グループ]:3辺へロン用計算書
[計算書作成]:[計算書を保存する]を選択

6 7 8

[三辺]タブをクリックし、画面下段のリストですべてのブロックが選択されていることを確認し[OK]をクリックします。

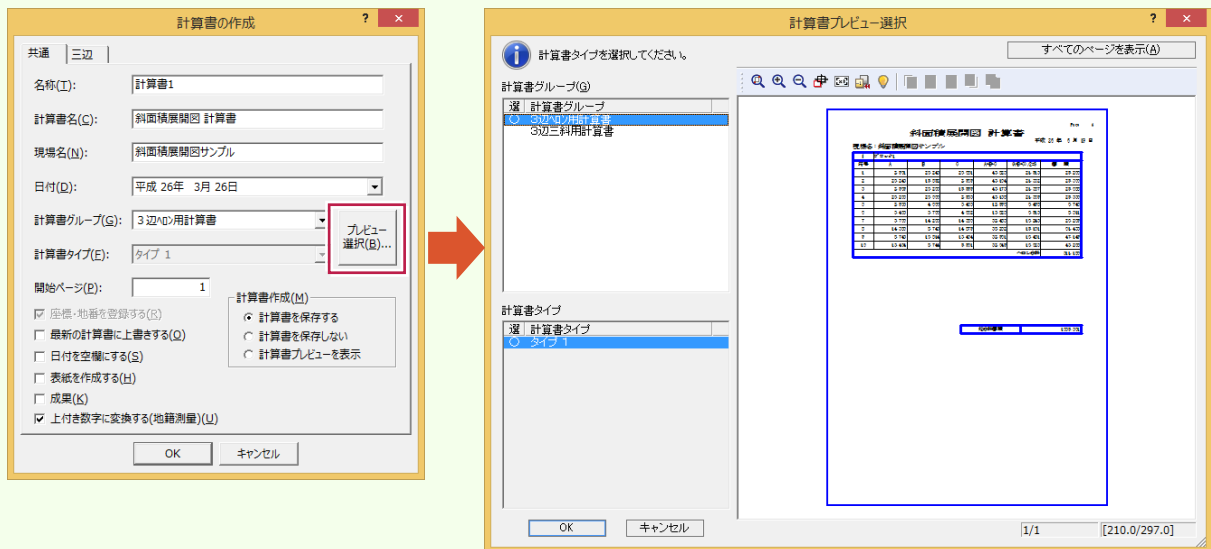


作成した計算書のイメージを表示します。
計算書のテキストを訂正することも可能です。
メニューバーの[ファイル]－[印刷]コマンドで出力できます

メモ

プレビュー選択について

作成する計算書をプレビューで確認することができます。

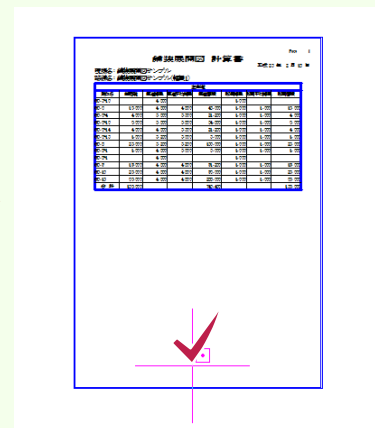
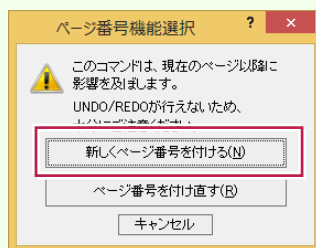


メモ

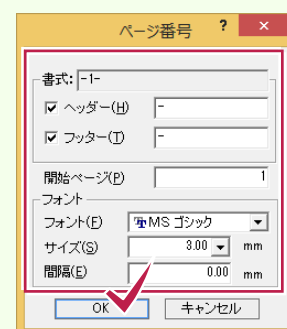
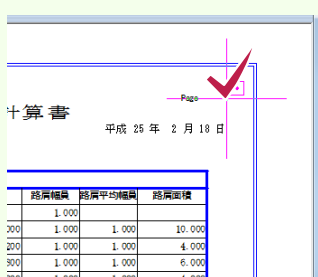
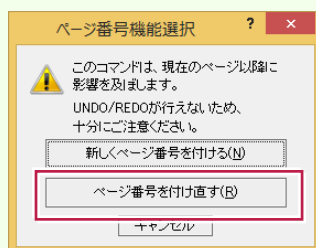
計算書のページ番号について

[データ編集]-[ページ通し]-[ページ番号]コマンドで、作成した計算書の現在のページから最終ページまで、一括で新たにページ番号を付けたり、付け直したりすることができます。詳しくはヘルプを参照してください。

■新しくページ番号を付ける場合の例



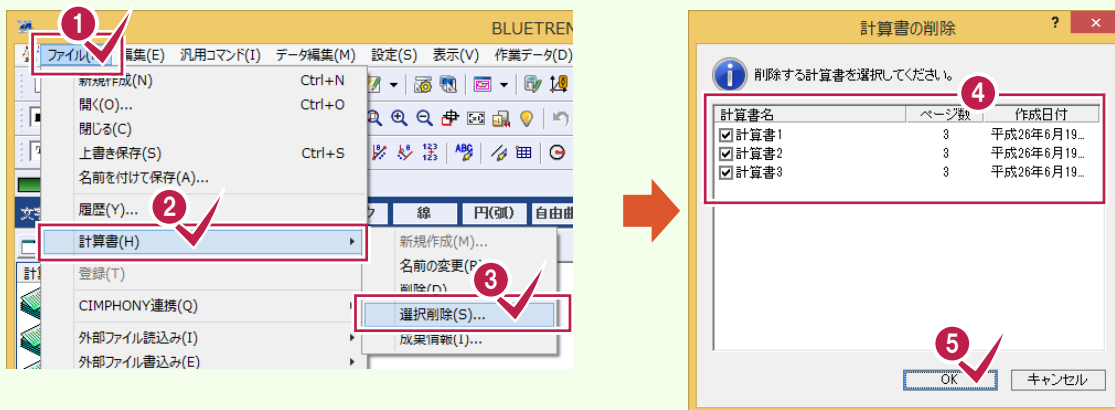
■ページ番号を付け直す場合の例



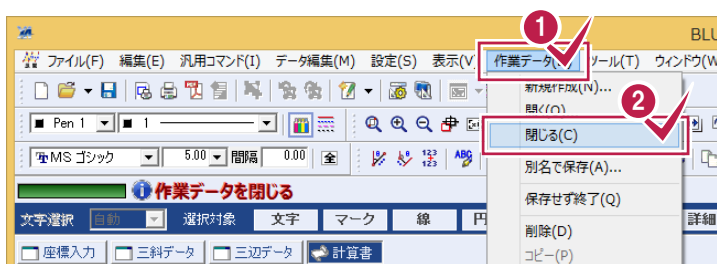


複数の計算書を削除するには

[ファイル]－[計算書]－[選択削除]コマンドで、複数の計算書を選択して削除することができます。



4-6 [斜面積展開図]を終了する



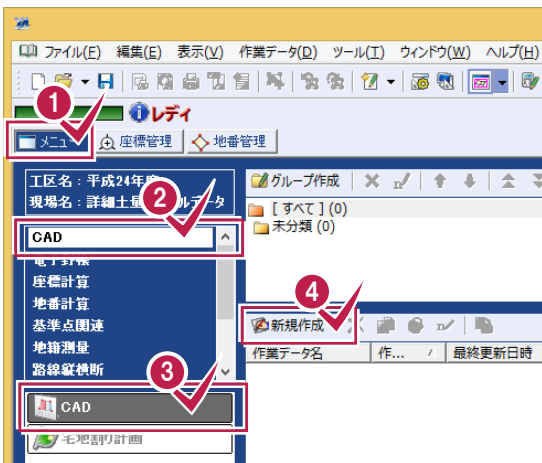
1 2

[作業データ]－[閉じる]をクリックします。
[斜面積展開図]ウィンドウが閉じ、メインメニューへ戻ります。

5 斜面積展開図の作成

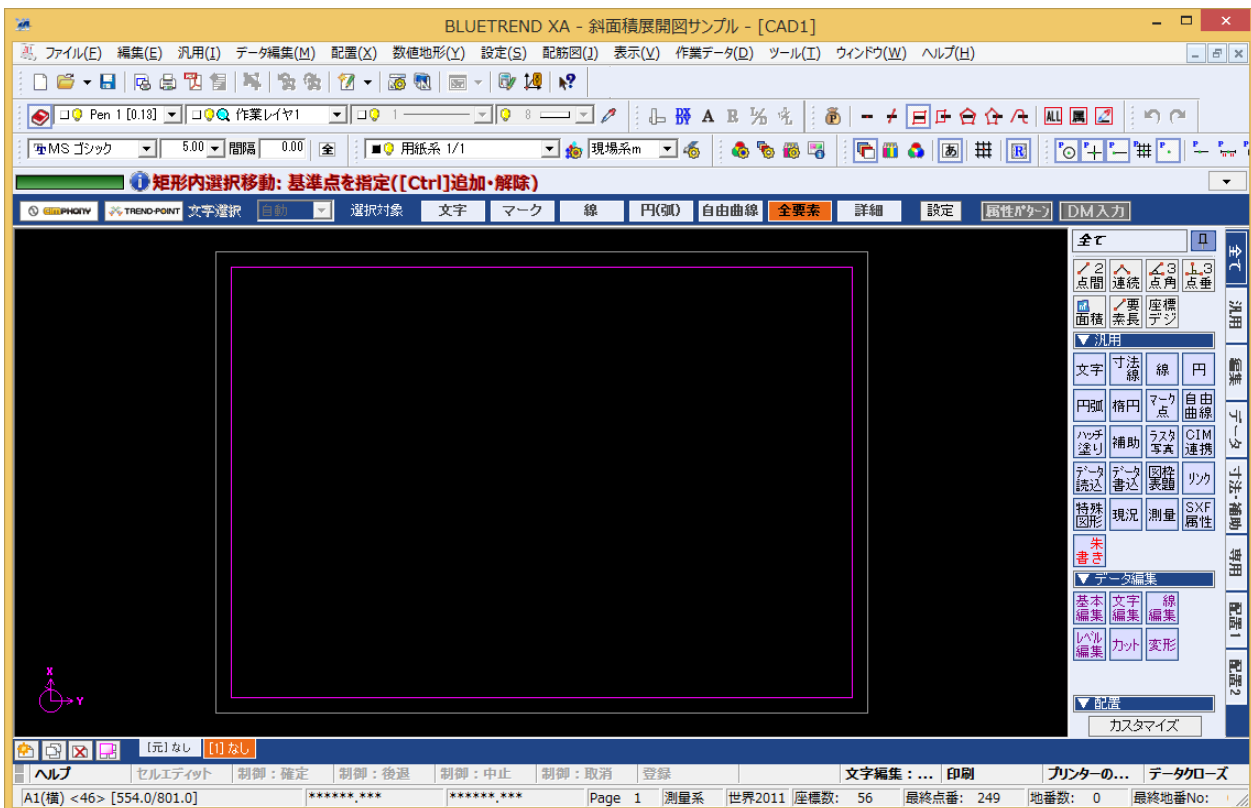
[CAD]に[斜面積展開図]で入力した作業データを読み込み、配置する用紙を選択し、CAD上にCAD製図基準(案)に沿った斜面積展開図を自動作成します。

5-1 [CAD]を起動する



1 2 3 4

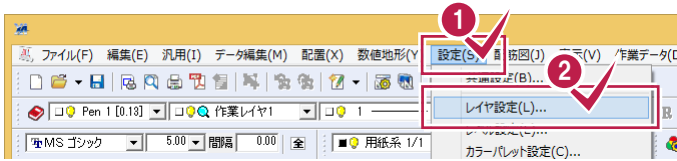
メインメニューで[メニュー]タブをクリックし、[CAD]–[CAD]–[新規作成]をクリックします。



5-2

CAD 製図基準(案)のレイヤを設定する

編集するためのレイヤもCAD製図基準(案)のレイヤに沿って配置するため、作業レイヤにテンプレートを読み込みます。

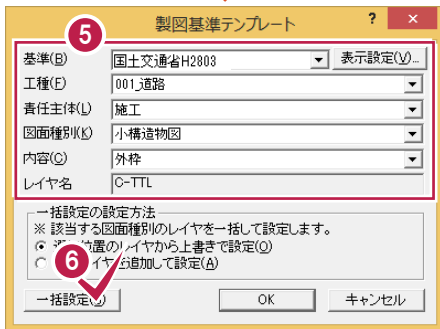


1 2

[設定] - [レイヤ設定] を順にクリックします。

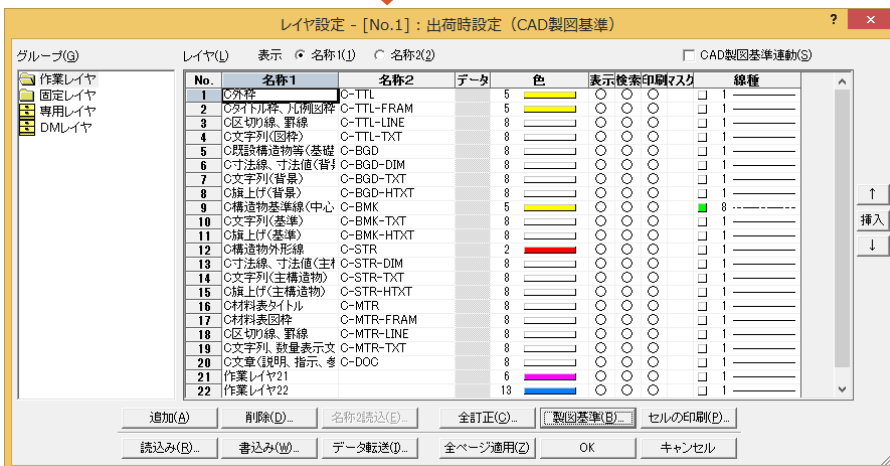
3 4

[作業レイヤ] を選択して、[製図基準] をクリックします。

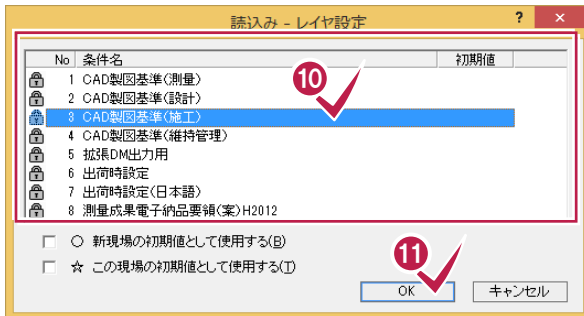
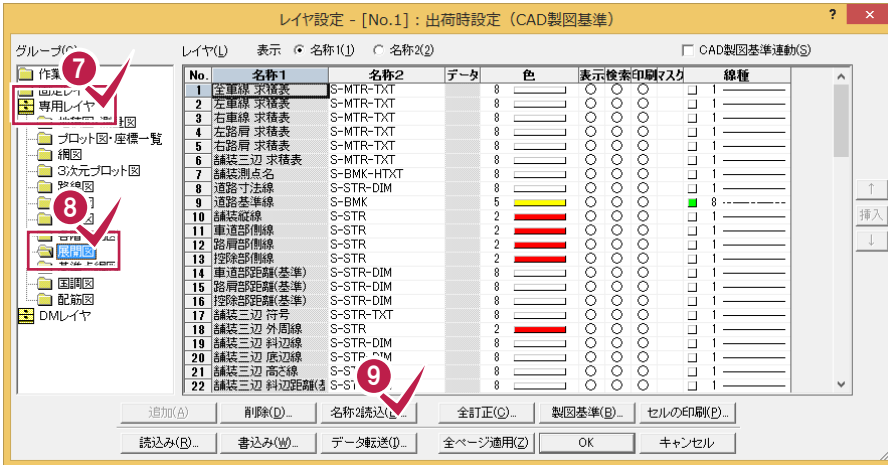


5 6

下図のように各項目を設定し、[一括設定] をクリックします。
 [基準]: 国土交通省H2803
 [工種]: 001_道路
 [責任主体]: 施工
 [図面種別]: 小構造物図



続けて、[固定レイヤ][専用レイヤ]の設定を行います。([固定レイヤ][専用レイヤ]は同時に取り込まれます。)

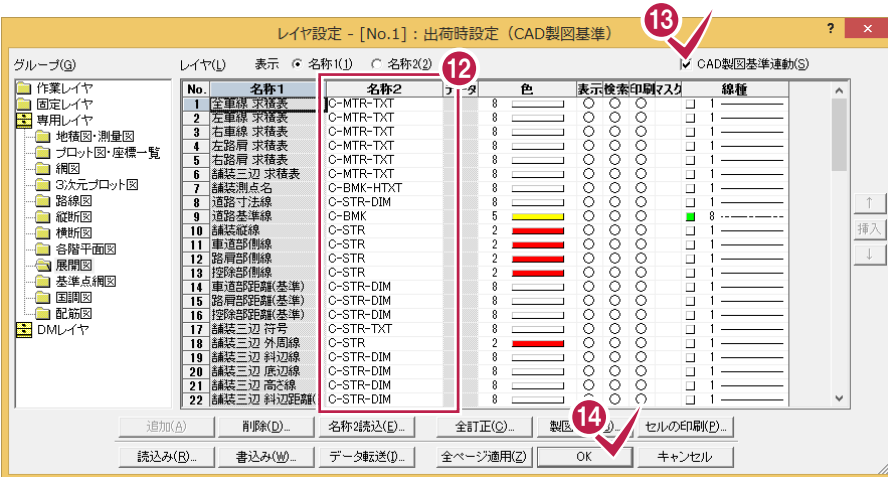


7 8 9

[専用レイヤ]-[展開図]を選択して
[名称2読込]をクリックします。

10 11

「CAD製図基準 (施工)」を選択
し、[OK]をクリックします。
[名称2]が読み込まれて、[レイヤ
設定]ダイアログへ戻ります。



12 13 14

[名称2]の先頭が「C」に変更さ
れていることを確認し、[CAD製
図基準連動]のチェックをオンに
して、[OK]をクリックします。



【CAD製図基準連動】

チェックをオンにすると、データを入力するときのレイヤや色などが、CAD製図基準(案)に沿った約束事に固定(連動)されます。また、レイヤ設定は、基本的にデータ入力前に行います。

5-3 展開図のスタイルを設定する

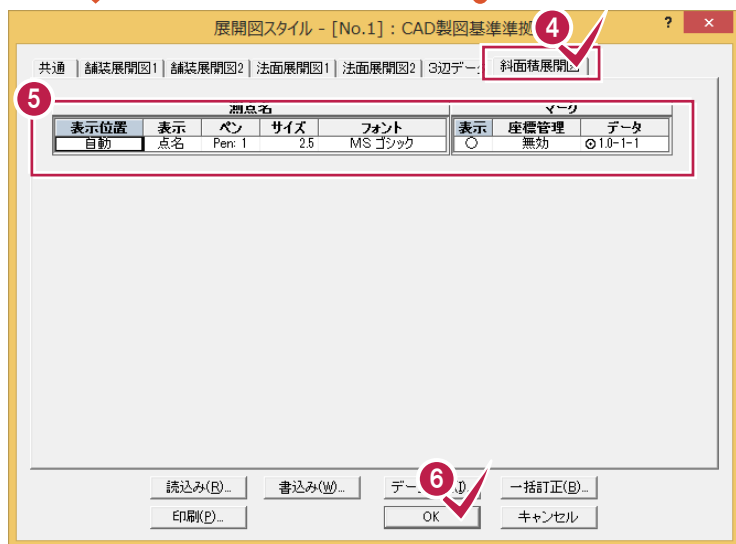
作図条件を設定します。

コンピューターに図面を自動で描かせるために展開図スタイル(文字のサイズ、位置、向き、線の太さ等)の設定を行います。



初期値は、「CAD製図基準(案)」に準拠したスタイルです。

- 1 2 3 [全て]タブの[配置]グループの[展開図]-[スタイル]をクリックします。
- 4 5 [斜面積展開図]タブをクリックして、各項目を確認します。
- 6 [OK]をクリックします。

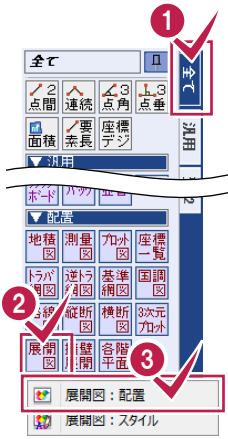


メモ [書込み][読み込み]
 設定内容を変更した場合などは、[書込み]ボタンで設定内容を保存することができます。
 この保存した設定は、[読み込み]ボタンで読み込むことができます。

5-4 展開図を配置する

[斜面積展開図]の作業データを読み込み、用紙サイズ・配置位置を指定してCAD上に配置します。

データを読み込んで用紙を設定する



作業データをメインメニューの作業グループで分類して登録している場合は、ここで作業グループを選んで、作業データを選択することができます。

1 2 3

[全て]タブの[配置]グループの[展開図]-[配置]をクリックします。

4 5 6

[データ読み込み]をクリックして、読み込む斜面積展開図データを選択して、[OK]をクリックします。

7

[選択データ]に読み込んだ斜面積展開図の作業データ名が表示されていることを確認します。

8

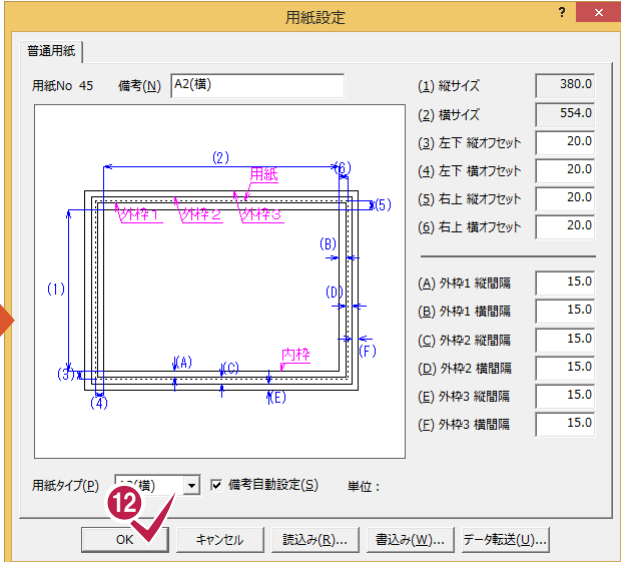
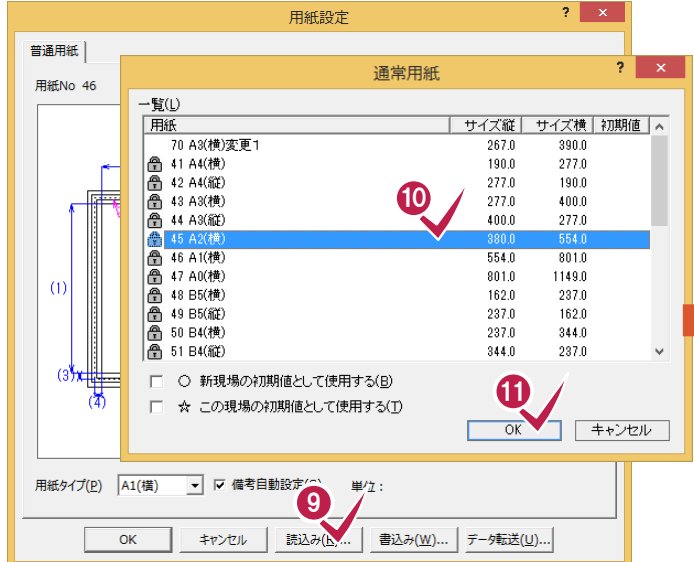
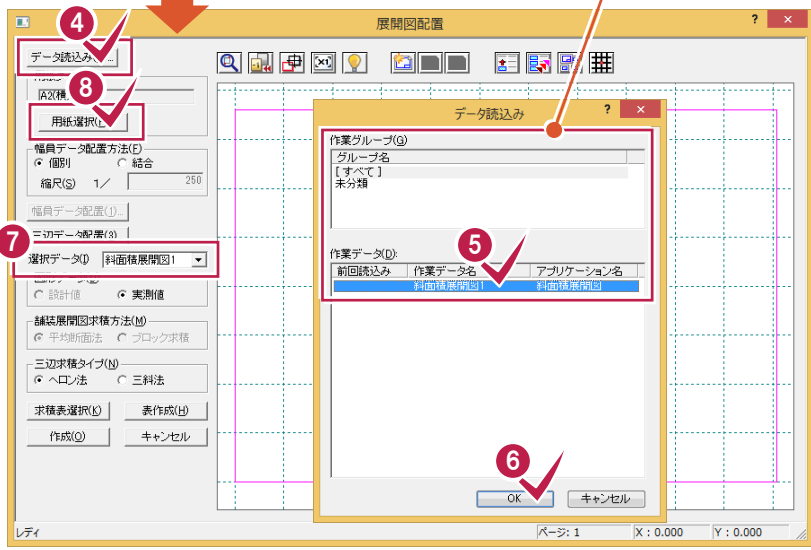
[用紙選択]をクリックします。

9 10 11

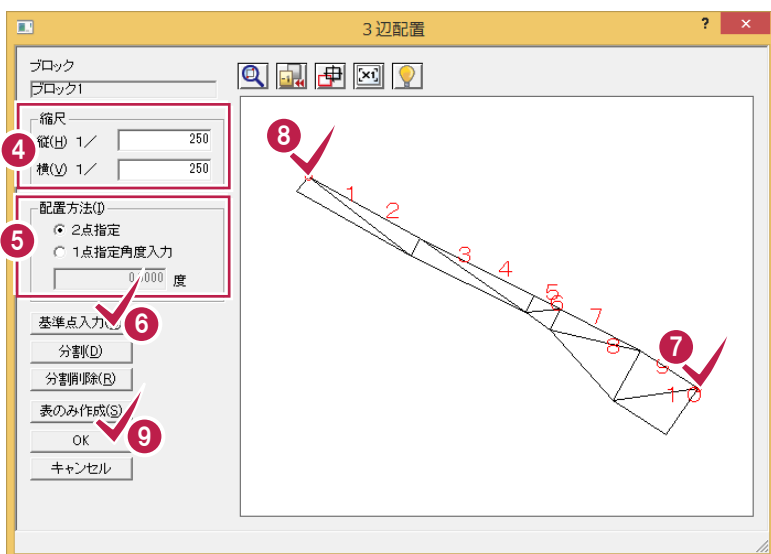
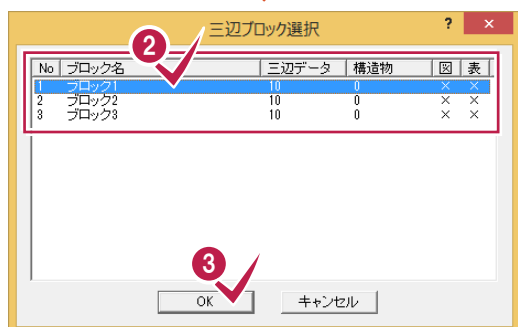
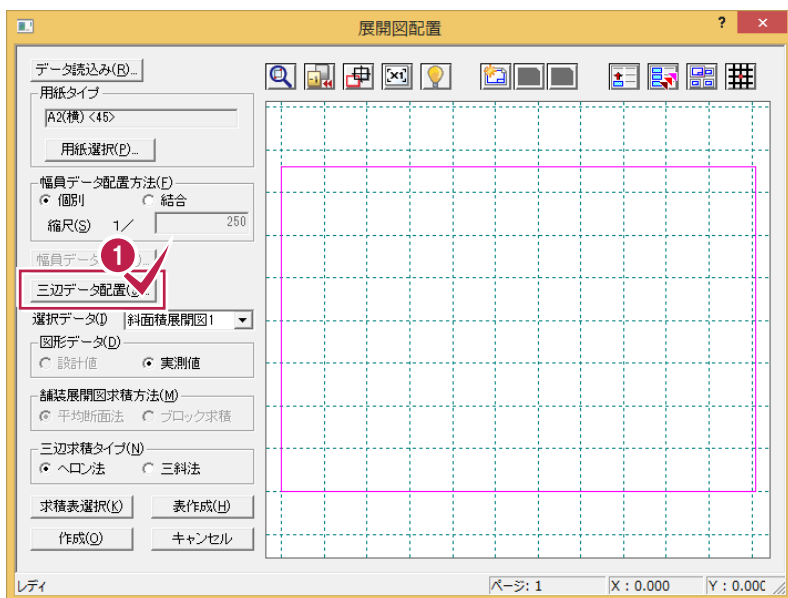
[読み込み]をクリックして、「45 A2(横)」を選択して、[OK]をクリックします。

12

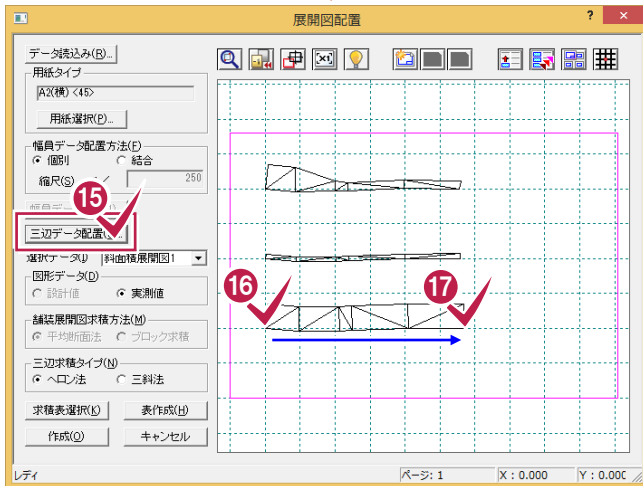
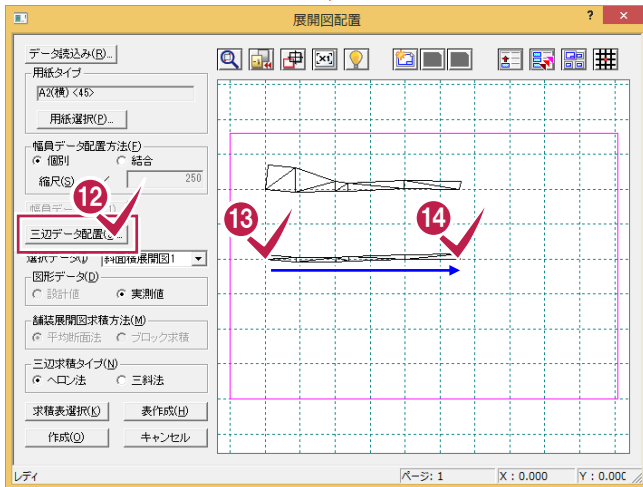
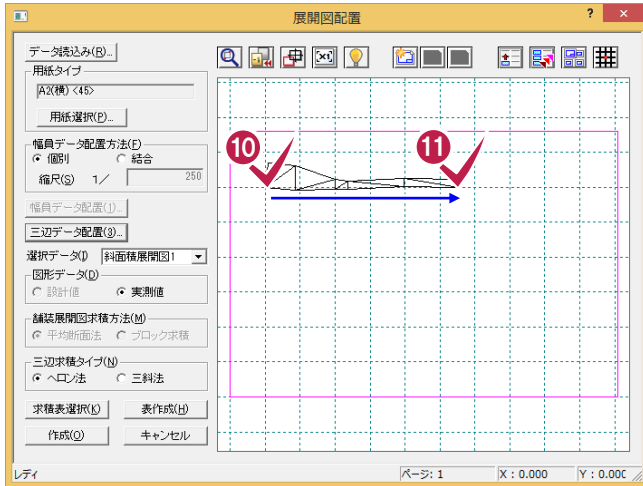
読み込まれた用紙情報を確認して、[OK]をクリックします。




三辺データ配置を設定する



- 1 [三辺データ配置]をクリックします。
- 2 読み込むブロックを選択し、[OK]をクリックします。
- 3
- 4 縮尺を設定します。
[縮尺][縦]:250
[縮尺][横]:250
- 5 配置方法を指定します。
[配置方法]:[2点指定]を選択
- 6
- 7
- 8 [基準点入力]をクリックし、レビュー上で2点をクリックします。
- 9 [OK]をクリックします。
[展開図配置]ダイアログへ戻ります。



10 11

先ほど指定した2点の基準点の位置をプレビュー上でクリックして配置します。
画面が小さいときは  で拡大します。

12 13 14 15 16 17

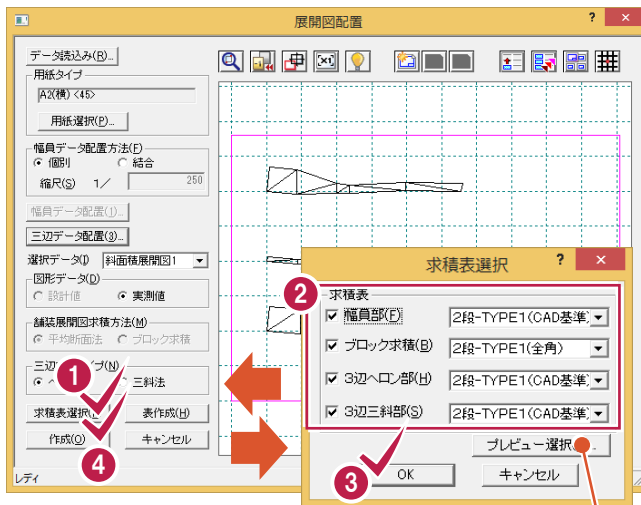
同様に、[展開図配置]ダイアログの[三辺データ配置]をクリックして、「ブロック2」「ブロック3」を配置します。



配置をやり直すには

幅員データ、三辺データの配置をやりなおす場合は、もう一度[幅員データ配置][三辺データ配置]をクリックして、最初から操作してください。

展開図を作成して求積表を配置する



1 [求積表選択]をクリックします。

2 3

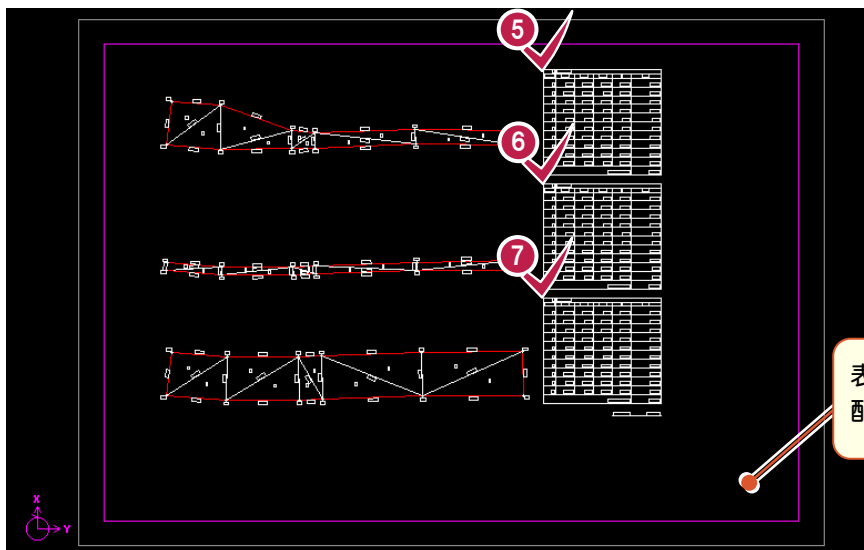
配置する求積表のチェックをオンにし、[OK]をクリックします。

4 [作成]をクリックします。
展開図が作成されます。

5 6 7

展開図に求積表を配置します。
マウスカーソルの位置に表が表示されますので、配置したい位置をクリックします。

[プレビュー選択]をクリックすると、求積表のプレビューを表示します。



表題欄の場所を空けて配置します。

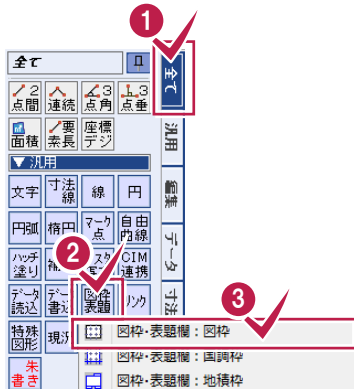


メモ 求積表の再配置

再度、[全て]-[展開図]-[配置]コマンドの[展開図配置]ダイアログで、[作成]を実行します。

5-5

図枠を配置する



1 2 3

[全て]タブの[汎用]グループの[図枠・表題欄]-[図枠]をクリックします。

4 5

[枠設定]タブをクリックして、外枠・内枠、ペンNoを下記のように設定します。

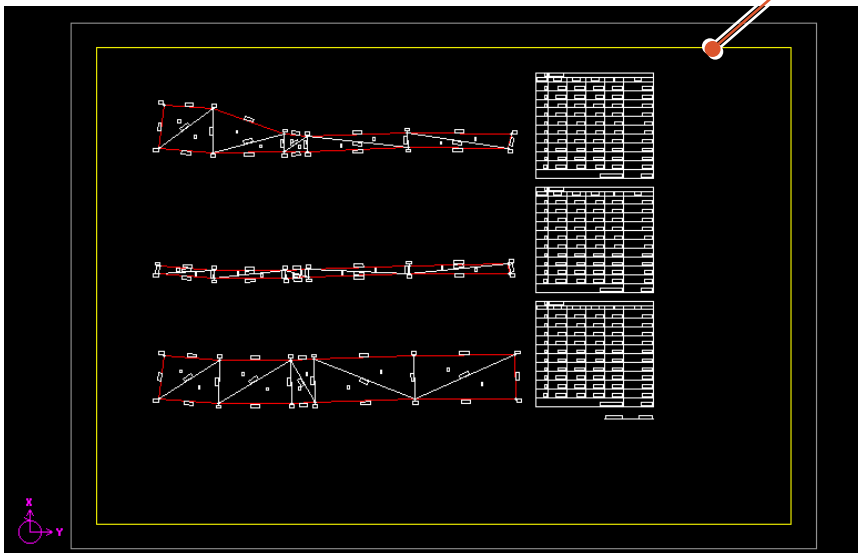
[外枠1]:なし

[内枠]:あり

[ペンNo]:Pen7[1.00]

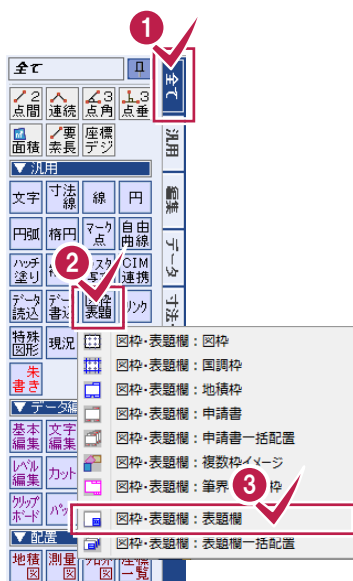
6 [OK]をクリックします。

配置された図枠



5-6

表題欄を配置する



1 2 3

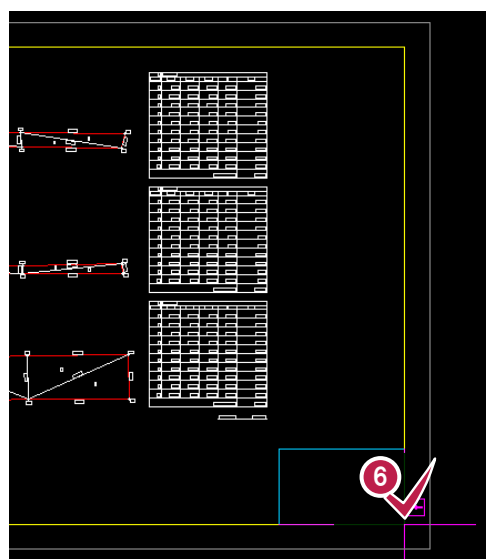
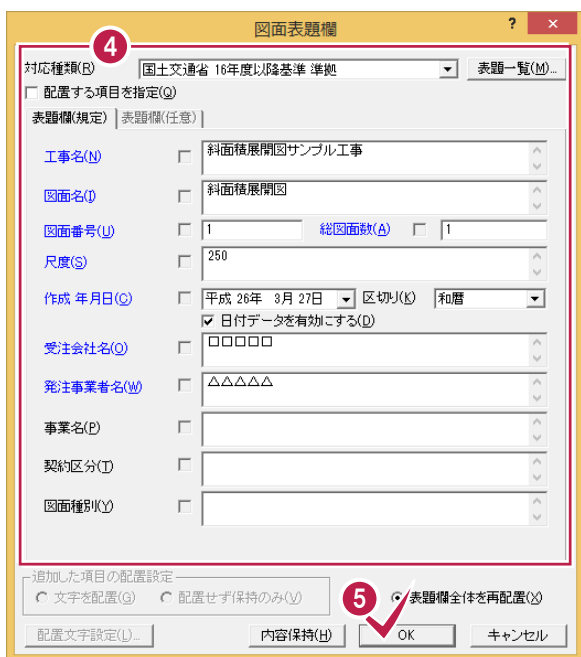
[全て]タブの[汎用]グループの[図枠・表題欄]-[表題欄]をクリックします。

4 5

各項目を左図のように設定し、[OK]をクリックします。

6

図面の右下(枠線の隅部分)をクリックして、表題欄を配置します。



5-7 CAD 製図基準チェックをする

CAD製図基準チェックを実行します。



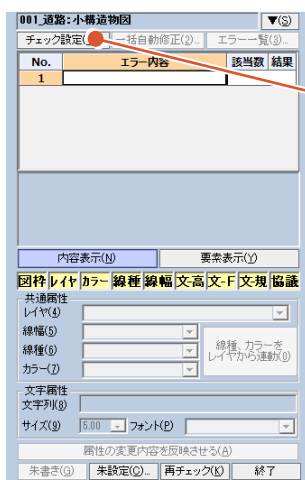
1 2 3

[全て]タブの[汎用]グループの[CAD製図基準チェック]をクリックします。

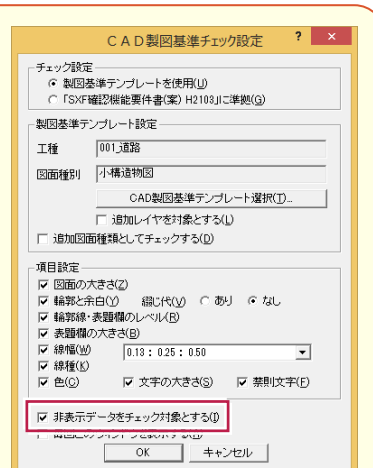
CAD製図基準チェックが実行され、チェックの結果すべてのデータが正常であった場合には、下図のようなメッセージが表示されます。

4 [OK]をクリックします。

CAD製図基準に準拠されていない箇所が発見された場合には、画面左にチェック結果が表示されます。エラー箇所が発見されたら、一括もしくは個別修正を行います。一括自動修正については、次ページの[メモ]を参照してください。

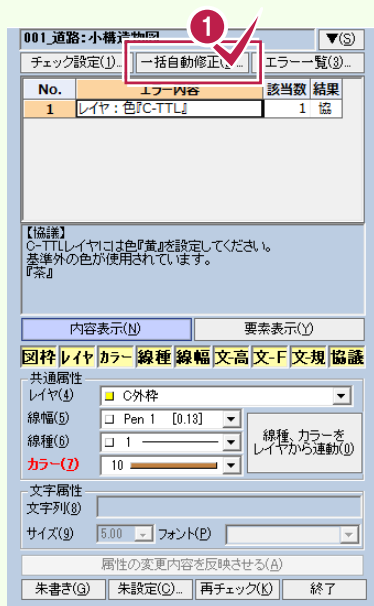


[チェック設定]で「非表示データをチェック対象とする」をオンにすると非表示データについてもチェックを行います。

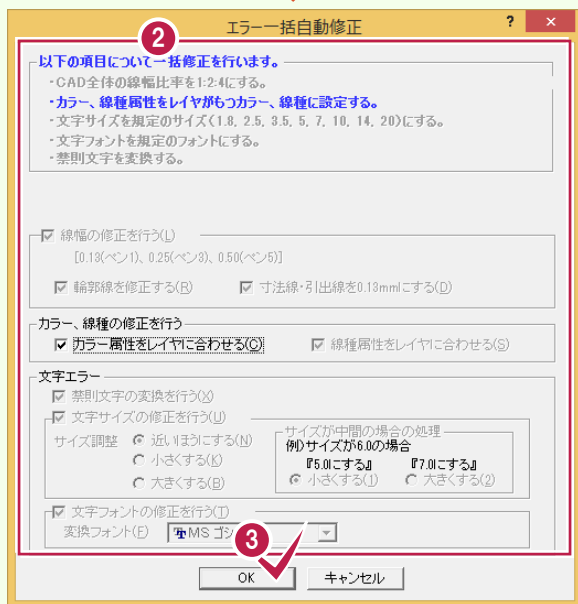




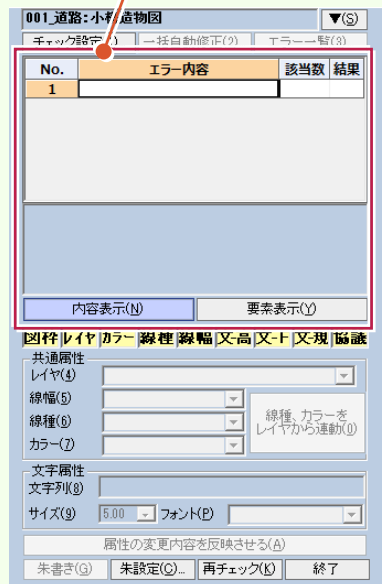
エラーを一括して自動修正する



- 1 [一括自動修正]をクリックします。
- 2 修正内容の確認と設定を行います。
操作例では確認のみとします。
- 3 [OK]をクリックします。
自動修正処理が実行され、終了するとエラー個数の確認メッセージが表示されます。
- 4 [OK]をクリックします。
エラー箇所が修正され、チェック結果から修正したエラー要素の表示が消えます。

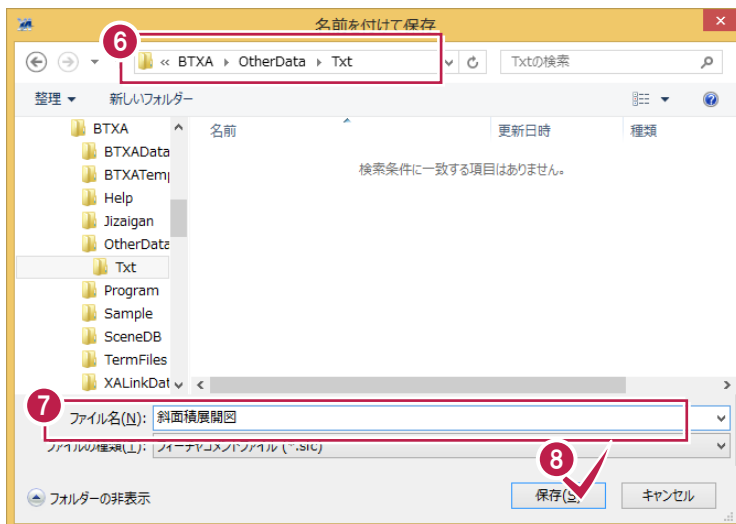
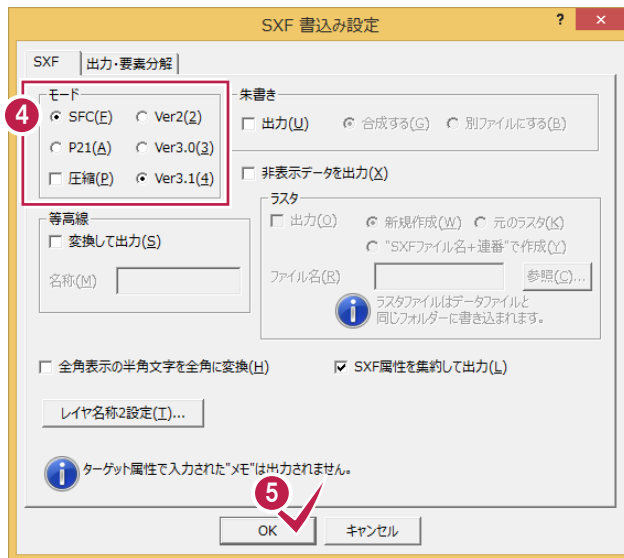
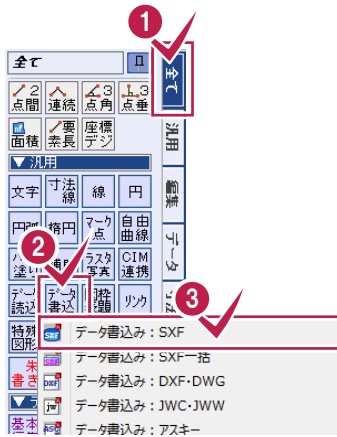


エラー箇所がすべて修正されたことが確認できます。



5-8 SXF データに保存する

CAD製図基準に準拠したデータをSXF仕様のデータに保存します。



1 [全て]タブの[汎用]グループの[データ書込み]—[SXF]をクリックします。

4 5 ファイル形式、SXFバージョンを設定して、[OK]をクリックします。

6 7 8 保存先、ファイル名などを設定して[保存]をクリックします。

9 保存処理が実行され、完了すると確認のメッセージが表示されますので、[OK]をクリックします。



6 現場データの保存

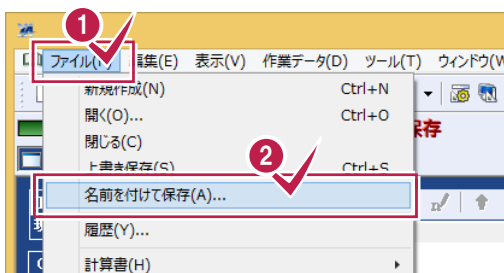
BLUETREND XAでの作業データはメモリ上に保存されているために、[ファイル]－[名前を付けて保存]コマンドもしくは[ファイル]－[上書き保存]コマンドを実行するまでハードディスクに保存されていません。ハードディスクに保存せずに、BLUETREND XAを終了したり、コンピューターの電源を切ったりするとデータが消滅します。

[上書き保存]と[名前を付けて保存]の違いは、現場ファイル名を変えずにそのとき保存するか、名前を変えて別ファイルに保存するかです。新規の現場データでは[名前を付けて保存]、内容を変更してそのまま保存する場合は、[上書き保存]を選択します。

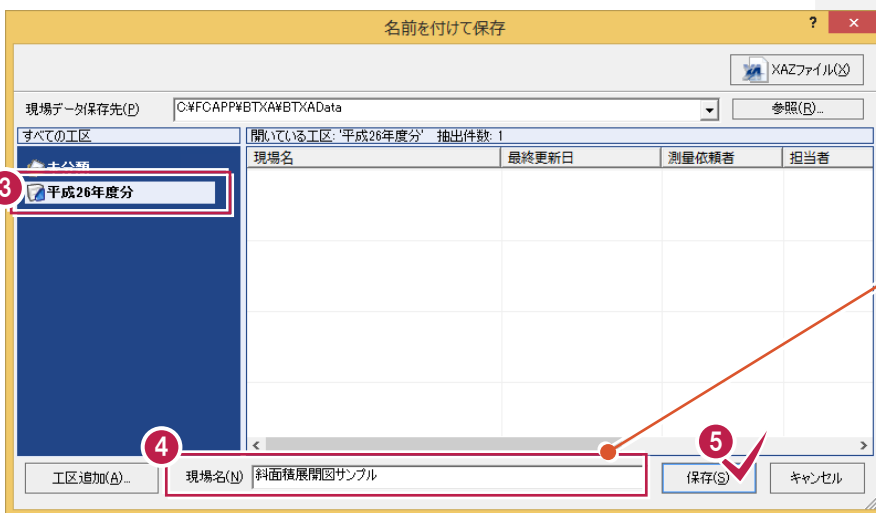
こまめに保存することで、不慮の事故によってシステムダウンした場合に影響が少なく済みます。作業データを入力・変更したとき、各作業を終了するたびに保存することをお勧めします。

ただし、作業データ単位での保存はできません。[ファイル]－[名前を付けて保存]コマンドを実行して複数の作業データを1つの現場データとして保存します。

6-1 現場データを保存する

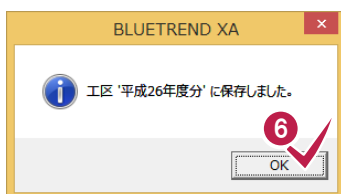


- 1 [ファイル]－[名前を付けて保存]を順にクリックします。
- 2 [工区]を確認します。
- 3 [現場名]を確認します。



現場名には、[現場の新規作成]ダイアログで入力した[現場名]の文字列が表示されます。

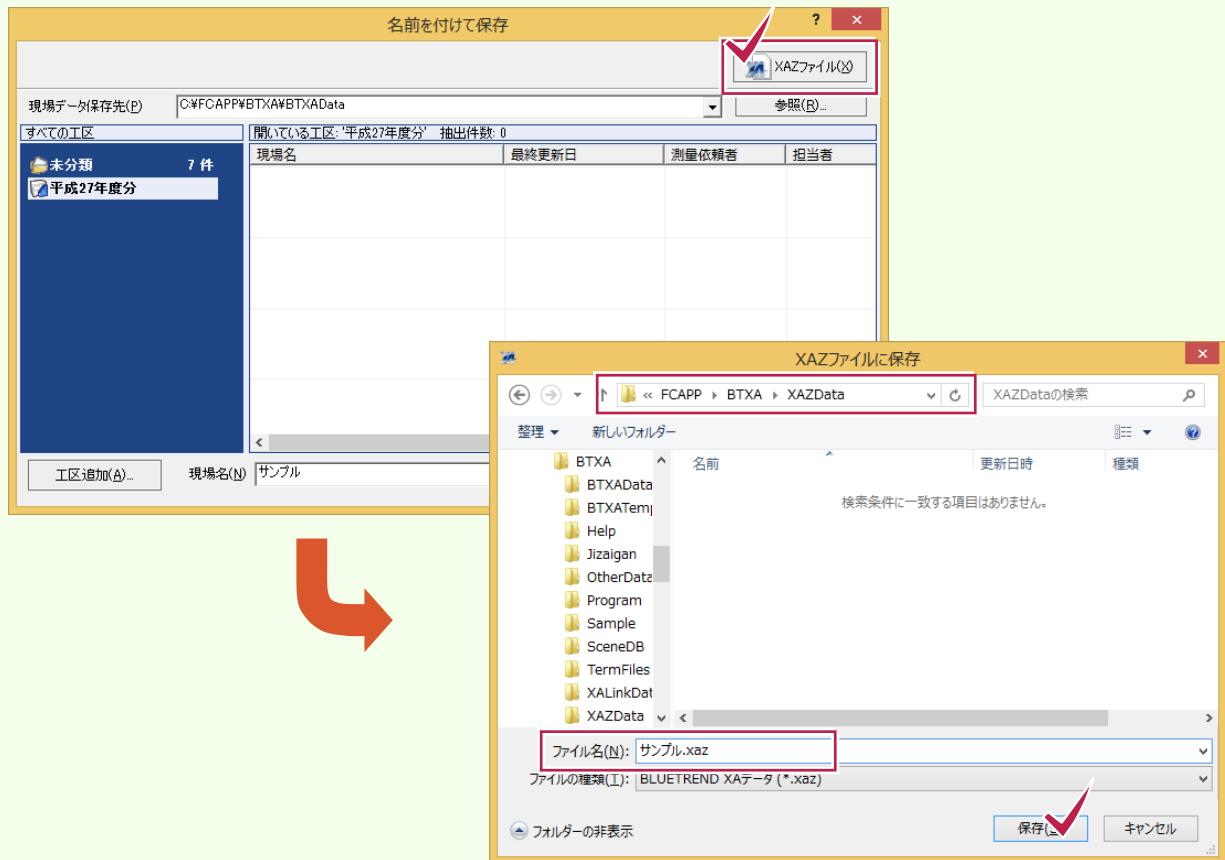
- 4 [保存]をクリックします。
- 5 [OK]をクリックします。





XAZ ファイルについて

[名前を付けて保存]ダイアログで[XAZ ファイル]を選択すると、データを xaz 形式に圧縮して指定したフォルダーに保存することができます。



上書き保存について

上書き保存を実行すると、前回保存したデータに上書きされ、前回のデータはなくなります。

前回のデータを残す場合は、[ファイル]–[名前を付けて保存]コマンドを使用してください。